



3 将来都市構造

将来都市構造は、将来の目指すべき都市の姿を概念的に示すものです。
都市全体の構造を、次の3つの要素により示します。

(1) ゾーンの形成〈面の構造〉

市街地、田園、自然の形態を面的にゾーンとして位置づけるもの

(2) 拠点の形成〈点の構造〉

都市及び地域の拠点形成として位置づけるもの

(3) 軸の形成〈軸の構造〉

機能的な軸の形成と地域拠点間の連携として位置づけるもの

(1) ゾーンの形成〈面の構造〉

本市の土地利用の特性から「市街地ゾーン」、「農業振興ゾーン」、「自然環境保全・育成ゾーン」と位置づけます。

「市街地ゾーン」

- 商業、医療、福祉、教育文化や公共公益施設等の都市機能が集まるゾーンを形成します。
- 島原半島の中核として、半島の地域経済を支えるためにも広域的な拠点として交通アクセスの強化に努めます。

「農業振興ゾーン」

- 有明地域、三会地域、杉谷地域、安中地域の農地を「農業振興ゾーン」とし、県下有数の農業地帯の更なる振興を図るゾーンとします。

「自然環境保全・育成ゾーン」

- 「自然環境保全・育成ゾーン」として、国立公園を主な区域と位置づけ、山林や火山地形等の自然環境を保全するとともに、観光資源として活用するゾーンとします。

(2) 拠点の形成〈点の構造〉

本市の都市構造の拠点として、都市機能を集約する「中心拠点」及び「地域生活拠点」、海上交通の利便性を図る「海上交通拠点」、工業の活性化を図る「工業拠点」、代表的な観光資源を「観光拠点」、自然と触れ合う場所を「自然交流拠点」、農業体験を行う場所を「農業交流拠点」として位置づけます。また、島原半島ジオパークの構成要素でもある火山資源等を「ジオサイト」として位置づけます。

「中心拠点」 島原城周辺

- 島原城周辺を、商業、医療、福祉、教育文化や公共公益施設等の都市機能が集まる中心拠点とします。また交通拠点として島原駅、島鉄バスターミナルを中心に機能強化を図ります。

「地域生活拠点」 有明庁舎周辺

- 有明地域の中心部については、公共公益施設をはじめ、商業、医療、福祉、教育等の都市機能が集積していることから、有明庁舎や有明総合文化会館を核とする「地域生活拠点」を形成します。
- 良好な営農環境と農村景観を保全するため、土地利用区分の明確化を図り、市街地と農村が調和した都市空間を形成します。



「海上交通拠点」 島原外港

- 海の玄関口である島原外港は、業務や観光における海上交通の拠点であり、市内外への交通結節点として、道路や交通アクセスの利便性の向上を図ります。また、商業・業務地としての都市機能の集約や生活利便性の向上を図ります。

「工業拠点」 島原新港三会工業団地

- 島原新港三会工業団地には、食品加工関連施設や青果市場関連施設が立地しており、今後も、貨物対策施設等の物流機能が整備された「工業拠点」として位置づけます。

「観光拠点」 島原城周辺

- 本市の観光資源である島原城、武家屋敷、鯉の泳ぐまちのエリアを「観光拠点」とし、施設の整備や観光施設間の回遊性の向上、街なみ景観の整備を図ります。
- 島原城や武家屋敷は、歴史・文化的価値も高く、歴史・文化のシンボルとして位置づけます。

「自然交流拠点」 平成新山等の火山資源

- 平成新山を望む平成新山ネイチャーセンター周辺を「自然交流拠点」として位置づけ、雲仙岳災害記念館、ジオツアー（「ジオサイト」参照）等と連携して、保全・活用に努めます。

「農業交流拠点」 舞岳山荘周辺

- 舞岳山荘周辺を農業交流拠点として、民泊・農業体験のグリーンツーリズム等を推進し、交流人口の増加を図ります。

「ジオサイト」

- 島原半島世界ジオパークにおいては、平成新山等の自然を活かした「ジオサイト」（地形や地層を観察・体験できる場所）をPRするとともに、国内のジオパークとの連携をはじめ、韓国済州島と姉妹ジオパーク提携、香港ジオパークとの協力協定のもと、諸外国ジオパークとの連携・交流を行います。またジオサイトは、ジオツアー（地質や自然遺産を巡る小旅行）等により、市民や国内外の観光客の集客を図る拠点とするとともに、「自然との触れ合いの場」、「自然学習の場」として活用します。

(3) 軸の形成〈軸の構造〉

広域的な連携と市内交通体系を強化する都市機能の軸として「広域連携軸」、「市街地連携軸」、「海上交通軸」を位置づけます。

「広域連携軸」

- 広域連携軸としての地域高規格道路「島原道路」は、観光や物流、救急医療等、他地域との高速交通を強化する重要な都市基盤施設であり、沿道の環境との調和を図りながら、早期の完成を目指します。
- 島原半島の3市が連携し、島原地域の更なる魅力アップを図ります。また九州新幹線西九州ルートの開通を見据え、長崎、熊本、天草等の観光地と連携した広域観光ネットワークを推進します。

「市街地連携軸」

- 市街地と各地域間を連絡する幹線道路として、国道、県道、都市計画道路の整備を図ります。また有明地域と市の中心部を結ぶ、道路網について検討します。

「海上交通軸」

- 九州新幹線鹿児島ルートが開通したことにより、産業や観光振興の面からも有明海東沿岸地域との連絡強化による広域連携を図る必要があります。福岡・熊本方面への連絡路として、フェリー、高速船、バス路線等、公共交通機関の連携強化を図ります。

